

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500320	事業の開始年月日	平成16年2月1日	
		指定年月日	平成16年2月1日	
法人名	株式会社 メデカジャパン			
事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風			
所在地	(〒259-0314) 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上771-24			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名	
		ユニット数	3 ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月24日	評価結果 市町村受理日	平成22年8月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑あふれる湯河原温泉郷に位置し、源泉かけ流しのお風呂に入っただけです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価機関 評価決定日	平成22年6月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所概要】 このホームは、JR東海道線湯河原駅からバスで約10分、バス停から12分程坂道を上った別荘等が多い環境に立地している。湯河原町で最初のグループホームである。建物は鉄骨造り2階建てで、2階に2ユニット、1階に1ユニットとデイサービスが併設されている。延床面積が988㎡、居室面積も13.52㎡と広い。各ユニットに天然温泉の風呂が設けられている。温泉入浴は週6回可能である。運営法人は、全国で「そよ風」の名で介護施設を事業展開している上場会社である。法人は現場主義を唱えており、事業所との風通しは良好である。</p> <p>【利用者への姿勢】 「共に生きる」を事業所の基本理念とし、利用者本位の支援に徹している。職員は常勤者が多く、離職者が少ないので、利用者と家族のような関係が築かれている。特にホーム長は家族・利用者との対話を重んじ、家族の訪問時には必ず声をかけている。部屋の掃除・環境面は職員の担当制で、全館清掃が行き届き、臭いもなく清潔である。</p> <p>【災害対策】 毎年、消防署の指導のもとに自衛消防訓練を実施している。火気を減らすために調理器具には、IHクッキングヒーターを使用している。スプリンクラーは、物置・トイレにも設け、居室には2個取り付けるなど災害対策に力をいれている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風
ユニット名	星ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
	○	2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
	○	2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
	○	2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲げ、毎朝礼時に理念の復唱を行なっている。また、各ユニットに理念のコピーを配布している。	法人の理念とは別に、事業所理念として「共に生きる」を掲げ事務所等に掲示しているほか、各理念や介護サービスの基本方針等を朝礼で唱和している。本人が嫌がることはしないことを心がけ、理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	センターの納涼祭や、BBQなどのイベント時はもちろん、地域での菊花展や買い物、幼稚園での催しもの等進んで参加している。	事業所の周囲に別荘等が多く居住者が少ないので、近隣の範囲を広げて、住民との交流の機会を作っている。事業所主催の納涼祭を開き参加を呼びかけたり、年始には利用者と一緒に挨拶回りをするなど努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時、地域の避難場所として湯河原町と協力協定を締結している。また、認知症者への対応相談、実習生、研修生、ボランティアの受け入れもおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を行なっている。サービスの実際等状況を報告し、ご家族、地域の方、行政の方のご意見を真摯に受けとめ取り入れるよう努めている。	運営推進会議では、新入居者の家族も参加したり、事業所以外のメンバーから地域の防災訓練や敬老会への参加を勧められるなど、活発に運営されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会に出席し、情報交換をおこなっている。また、分からないことなどがある場合には、市町村担当者に向うなどして確認作業をしており、密に連絡はとれている。	湯河原町の介護課のほか、福祉事務所・保健所等とも頻りに連絡を取り、助言を受けたり情報交換をしている。地域包括支援センター主催の介護関係の事業所連絡会にも出席している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等に参加するなど、積極的に学んでいる。また、ユニットでも、身体拘束のないケアを心がけている。	身体拘束をしないケアに向け内部研修を実施し、実践を心がけている。ただ、医師の指導や家族の同意の下で、止むを得ずつなぎ服を着て寝ているケースがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスケアの勉強会等に参加しており、センター内での勉強会においてもとりあげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しており、研修内容を回覧にて各ユニットにまわし、周知してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、入居者契約書、重要事項説明書に基き十分な説明を行い、理解・納得のうえ行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族のご意見は傾聴し、その場で対応したり、家族会を年3回開催し、応答の機会をもっている。また運営推進会議にて外部への報告もおこなっている。	ホーム長は家族の来訪時には必ず対話するよう努めている。年3回の家族会等でも家族から積極的に意見を聞いている。家族向けに「たより」を発刊しているほか、利用者の写真等を家族に毎月送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	支社会議、全体会議にて、意見交換をおこなっている。また、普段の業務内でも活発な意見交換が出来るよう、心がけている。	各種会議で職員が自由に発言し、提案し試みる風土がある。事業所主催の納涼祭開催やテント・バーベキューセットの購入提案を職員が行い、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会など参加したい職員がいれば、シフト調節などをおこなっており、やりがい、向上心をもって働けるよう環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外での研修には積極的に参加できるように回覧などで、各ユニットへ研修内容を周知させている。参加時は優先的にシフト調整をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の病院主催の勉強会に参加したり、看護師のグループホーム見学受け入れし、医療に関して質問するなど、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉を傾聴し、相手の立場になり考えていくよう努めている。また、ご希望等思いを理解し、その人らしく暮らせるよう会議にて職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のお話を傾聴するよう努めている。お話の内容に応じて、センター長または職員が安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、初期面接の場を持ち、ご本人のお話を伺える機会をつくっている。また、御家族のご意見も伺い、デイサービスやショートステイも含めてご相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように接し、より多くの笑顔が見られるように努めている。また、お洗濯や、ごみ捨て、調理など出来ることは皆様にやられている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常の情報などをお伝えし、職員、ご家族と共にご利用者を支援していけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛のお手紙など、返信を心がけており、それが楽しみになっている方もいらっしゃる。	古い知人や懐かしい親族の訪問を家族に要請することもある。地元のボランティアが来てくれたり、園児や高校生との交流もある。利用者に馴染みのある、湯河原町の観光資源である湯河原梅林（幕山）、さつきの郷、ゆかけまつり、やっさまつりや図書館等に出向く支援もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格と特徴を理解し、会話や作業等、楽しく皆で参加できるように配慮している。出来ることについては役割を担っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご家族との連絡を行なうようにしている。また、他施設へ移られた方にも訪問を行なっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中においてご本人の希望やお気持ちを聞き入れながらケアプラン作成、介護計画をおこなっている。計画に基づいたケアを実施記録し職員全員が把握するよう努めている。	入居相談時からアセスメントの充実に努め、利用者や家族との会話から記録を更新している。福祉事務所からも協力を求める場合もある。その情報を共有し、利用者の思いや意向に沿ったケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ生活歴を尊重し、ご本人の意向に沿うかたちで食事や、入浴、などサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日勤、夜勤で申し送りをし、状況把握に努めている。その際、ノートやケア記録を参照している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思、御家族の要望、職員の意見、Drの指示などを取り入れ、作成している。出来上がった計画書は御家族にご説明し、意見を伺った上、同意を得ている。	計画作成担当者が、本人・家族の意向、計画の達成状況、医師の助言等を勘案し原案を作り、会議で全職員で検討し作成している。目標は3つ程度に絞り、着実に達成できることを掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康状態、個別ケアの内容を申し送りノート、個別記録用のファイルに記入し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのみならず、認知症対応型デイサービスをはじめ、ショートステイ事業にも取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアを積極的に受け入れている。また、消防とは、定期的に実施している消防訓練を通じ指導などをうけている。また地域の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と共に相談し、掛かりつけ医をきめています。また、病状によっては主治医と相談しながらより、最適な医療が受けられるよう努めている。	入居前からのかかりつけ医を受診している方は5名いる。利用者・家族と相談し、家族の付き添いや重度化等も想定し、医療機関を決めている。介護病棟がある病院を協力医療機関に選定している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受信時や、必要時に提携病院の看護師に相談し、支持を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連絡を密にし早期退院に向けて病状や時期の見通しなどの把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族の意思を確認している。ご本人、御家族の意思を尊重し医療行為の発生までの期間最善のケアをするための医師、ご家族、スタッフの支援体制は整っている。	入居時に事業所の対応方針を説明し、入居後は利用者の状況をみて、利用者・家族と主治医等が話し合い、対応を決めている。これまでは協力病院、介護療養型医療施設や特別養護老人ホーム等に入る例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、状況に応じて対応できるよう、全職員が熟知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時必要な物品、食料、水など消防と相談して準備している。避難訓練は年2回実施している。	消防訓練実施計画を消防署に提出し、訓練を年2回実施している。消防署の指導により訓練に利用者は参加していないが、利用者を安全にどこへ避難させれば良いか、事業所として場所や方法を策定済みである	事業所の周囲に定住者が少ない事情があるものの、災害時には近隣住民の協力を得られるよう、行政等を通じて近隣住民との一層の協力関係構築を期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行なっている。また、部屋は全員個室でノックをして入室している。	採用時研修で、人格の尊重にむけての場面に応じた言葉遣いや声かけ方法を学び、その後、3ヶ月間「指定チューター（指導者）」より個人指導を受ける仕組みがある。不適切な対応があった場合には、その都度ホーム長が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、利用者本意であるよう心がけており、ご利用者の選択肢が増えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状況を把握し、無理のない様に過ごしていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、二ヶ月に一度訪問理美容が来ており、希望者のみ実施している。また、日々の整容に気を配り、外出時にはお化粧をする等している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や一人ひとりの好みを取り入れた食事の提供を心がけている。また、下ごしらえから後片付けまで、出来ることを促し職員と一緒にしている。	管理栄養士が作成した献立表をベースに、ユニット毎に利用者の好み等によりアレンジして調理している。適切な素材と価格を長期に確保していくために、地元の魚屋・八百屋等と情報交換を密にしている。職員も同席、同食している。利用者は準備・片付けは出来る範囲で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量共に摂取量を確認し、記入している。不足していると思われるときはその都度対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔維持を心がけています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれ声掛け等、行なっている。	チェック表により排泄パターンや予兆を把握しているので早めにトイレ誘導を行い、全員が自立排泄できるよう支援している。夜間のオムツ利用者は2人である。失禁等は他の方にわからないようすぐに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認、水分量チェックを行い、また適度の体操、マッサージなどで排便を促すよう努めています。また、牛乳、オリゴ糖、寒天、バナナ等による工夫もしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人でゆったりと又は、仲の良いご利用者同士で入られる方などそれぞれのタイミング等で入れるよう心がけている。	ユニット毎に温泉入浴が週6回可能である。1日は消毒日に当てている。入浴時間帯は午前11時から午後3時半までである。職員の付き添いで、1人ずつ入浴するのが基本であるが、仲間と入る方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が充分に取れるよう配慮しつつ、日中も横になりたい方は横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別にファイルしており、いつでも確認出来るようになっていいる。服薬についてはDrや、薬剤師の指示通り行なわれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえ、後片付け、ゴミだし、お洗濯物など、一人ひとりの出来ることや能力に応じた役割をさせていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調などを考慮し、ドライブや買い物などへ出かけている。ご家族との外食もしていただいている。	周囲の道が急坂であるため、日常的には平坦な敷地内で散歩等をして、自然の変化を楽しんでいる。外出行事として、梅、桜、皐月等の花見、花火見物があるほか、敷地内で納涼祭・バーベキュー等を開催している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全体的な金銭管理はスタッフが行なうが、自己管理出来る方についてはお財布を持っていただき、買い物の際などには御自分で払うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の訴えがあったときには出来る限り本人の意向に沿った支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事毎に飾りを変えたり、照明や温度の調節を行い、常に居心地のいい場所を提供できるように努めています。	廊下やエレベーター等は広く、天井も高く圧迫感を感じられない。廊下には木製のベンチが置かれ、居間の南側にはカーテンでなく障子をはめられている。壁には利用者の作品が飾られ、温かな家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、テーブルやソファで気の合うご利用者同士が、会話や共同作業を行ないながら過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使われてきた品物や自分が好んでいる物を置いたり、飾ったりされており、落ち着いて過ごされるよう、配慮しております。	居室の備品は、空調、防炎レースカーテン、カウンター、天井までの高さのある物入れである。自室の戸に錠をつけたり、馴染みの家具を持ち込んだり、家族の写真を飾り、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掛け、また浴室、トイレにも目印があり、混乱を防ぎ、安全に生活できるよう、配慮しております。		

事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風
ユニット名	月ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が日常的に職員に対し、運営方針や目標理解の働きかけをしている。（掲示や研修など）		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会の行事に参加、納涼祭には地域の方々が大勢来られます。ボランティアも定期的に来られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム機能を地域に還元例として災害時の緊急避難協定を町と結んでいる。認知症についての電話相談への対応をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会を年3回開催し運営推進委員会を年6回開催してグループホームの運営についてご意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連携や調整をしている。常に行政とは連絡をとって指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないですむ方法をユニット会議等で話し合っている。緊急時、退院後など能力低下などから危険性を回避しきれずやむを得ない場合は会議等で十分に検討し家族に同意を得てのみ行われる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等を開催し入居者について話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内や地域で開催される研修等への参加を交代で行っている。又、センター内でも研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に明示され家族に解りやすい言葉で説明するよう心掛けている。不明な点がないか確認して納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がいつでも意見や希望を言える様に働きかけている。(訪問時の言葉かけ、連絡ノート) ご意見箱を玄関に設置している。又、管理者が玄関にて声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、ユニット会議において自由に意見交換できる。定期的に管理者と職員の面談の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の向上心に配慮した研修等に参加しスキルアップする機会を作っている。努力・実績・勤務状況に応じて希望があれば正社員として雇用される制度を今後も維持していきたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修が行われている事、複数職員が年1回以上、外部研修をし研修報告をしている。又交代で同一企業内の他センターに研修に行く機会を設けている。次期リーダー養成の研修を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や医療機関での勉強会に参加してサービス向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からはゆっくと傾聴するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っている事、不安なこと、求めている事などを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から受けた相談（困っている事、心配な事、不安な事等）から必要な事を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の掃除、食器洗い、洗濯物たたみなど手伝って頂き助けて頂いている。昔懐かしいおやつの作り方等教えて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活の様子、状況など家族に相談して協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人とふれあったり（面会）電話にて声を聞かれたりして交流が保たれている。入居者同士で仲の良い方の居室も訪れたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作り、また、社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後においても近況を報告して下さったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で思いや暮らし方の希望・意向を会話などコミュニケーションをとり伺っている。困難な場合はその方が出来る事がやりたい事につながるような環境作りをするよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議を実施して検討している。会議に出席できなかった職員には会議録にての情報公開を行い、閲覧した場合には承認印を捺印する事になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人の生活日誌に身体の変化等具体的に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が受け入れやすいサービスから慣れて頂いている。例えばデイサービス、ショートステイからグループホームに移るなど。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月のように入居者に会いにきて下さるボランティアの方々や散歩の途中で言葉をかけに寄って下さる方もいる。消防署とは防災訓練等とおして交流を続けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期受診をしている。入所前からのかかりつけ医に家族の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師への相談等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化による支援に向けて家族、かかりつけ医と話し合い検討し方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度のユニット会議にて入居者の状況や今後起こりうる事柄、リスクマネジメントを周知している。緊急対応についても連絡網等により確認がとれており緊急対応マニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災、避難訓練を実施し、消防署への届出を行っている。又、消防署の方、監修の下、消化、避難訓練を行い指導して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。又、支援記録に個人（他者）が特定できるような記録は行っていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自分で決めたり希望を表すことを大切にしそれらを促す取り組みを日常的に行っている。（選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容にて入居者の希望に合わせて散髪していただいている。（カット、セット等）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら、食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したカロリー計算に基づき調理し提供。食事、水分摂取量はチェック表にて毎日のトータルを把握し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら口腔内の汚れや臭いが生じないように日常的に清潔を支援している。又、必要に応じ訪問歯科の機会にて義歯チェックや口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間排泄チェック表記録にて一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄のための誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄チェック表にて把握し便秘がちの方には運動したり、腹部マッサージを行うなどしている。便秘症状が続く入居者への対応については主治医に報告、相談し指導を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人一人の希望に合わせてくつろいだ入浴が出来るように支援している。（時間帯、長さ、回数等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の睡眠パターンを把握し、一日の生活リズム作りを通じた安眠策をとっている。それでも浅眠が続く入居者には主治医に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の説明書を薬箱に貼りいつでも目を通せるようになっている。以前の処方箋は個人ファイルに保管している。又、配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできる活動を活かして洗濯物たたみや食器拭き等行っている。又、一人一人の楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている（TV番組、ビデオ鑑賞、新聞、園芸等）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出を心掛けている。散歩や買い物も積極的に出掛け、車椅子の方もドライブや外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、金銭に関して希望や訴えがあれば入居者の希望、力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにプライバシーに配慮しながら支援している。（手紙や電話の利用の奨励、介助等）手紙が読めない方には職員が付き添い読むなどして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間はいずれも家庭的な雰囲気があり物品や装飾も家庭的である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に入居者が一人で過ごせたり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。居間のソファでテレビを閲覧になったりテーブル席で談笑したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に使い慣れた家具、生活用品、装飾品を持ちこんだり家族が持って来られた写真などを飾っている方もおり、自身が安心して暮らせるような場所になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の身体機能の低下を補う設備を使用し安全で自立して生活して頂けるよう言葉かけしたり、見守りしている。		

事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風
ユニット名	花ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて運営理念「そよ風憲章」唱和し、理念の共有・実践につながる様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加。幼稚園へご利用者と訪問したり、年の始めにはご利用者と一緒に近所へお年賀を持って挨拶に回っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症者への対応相談デイサービスの実施・短期間利用の実施を通し、地域貢献をしている。また、湯河原町と緊急時協力、協定締結（緊急時地域の避難所として受け入れ態勢をとっている）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案して頂き、地域の防災訓練に参加。老人会より敬老会や活動参加も勧めて下さっているので地域の行事にも参加していきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃より連絡を取り、連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを全ての職員が認識しており、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等参加している。日々の業務の中で職員同士声をかけ、ご利用者のQOLの向上に努めている。また、ユニット会議などご利用者の状況について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。又センター内で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については入居契約書、重要事項説明書に基づいて、十分な説明を行い、理解、納得のうえ行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見、不満、苦情などいつでも聴ける様心掛けており、それらをユニット会議・全体会議にて職員へ運営推進会議などにて外部へ報告し、アドバイスを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・支社会議にて運営について職員との意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回以上の処遇改善の機会があり、正社員への登用申請ができる。話し合いの基にそれぞれの意見を言う機会がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を勧めたり、本人の希望による研修が受けられる様取り組んでいる。また、各ユニットごと研修内容を決め、会議で共有できるしくみを作り、職員の向上につながる様試みている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域にある他事業所を訪問、または同職種の交流がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・家族より、初期面接にて話しを聴き、職員に落とし、ご本人が安心して暮らして頂ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方、ご利用者本人と面会し、要望を聞いている。ご本人、ご家族が安心して利用者者に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を見極め他サービス事業所との連携を図り、その方の要望や条件に合ったサービスが提供できる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることや得意な事（料理、掃除、趣味等）を職員と一緒に行ったときには共に喜んだり、また、感謝の言葉を伝え関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等がある時は案内を出し一緒に参加して頂いたり、また、月に一度手紙を出し、様子を伝えている。また、家族会も行い、家族の要望・意見なども聞き関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会・電話などに対応している。また、よく行かれていた場所などには行事にて出掛ける様に心掛けたりしている。（図書館、公園など）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の誕生日を皆さんで祝ったり、行事開催にてご利用者同士の交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族や関係者と情報交換はいつでも出来る体制にあり、行事の案内をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者との会話の中からその方の希望やお気持ちを読み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけご本人の意向に沿う形で、食事や入浴などその方の生活スタイルを大切に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、個人記録や申し送りノート・口頭での夜勤者や日勤者からの申し送りにて把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の様子をよく知り、具体的な計画を出し合い計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基に引き継ぎやユニット会議で疑問や提案を出し、より良い介護につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者や家族の要望に対応し、認知ダイ・ショートを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	見学相談者によっては、地域資源の活用方法等の助言をしている。また、入居されてからも地域との結びつきを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師とのコミュニケーションを図り、ご利用者の体調の変化や急変時を見逃さず受診や電話相談などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。かかりつけ医の看護師とは相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院中の不安を取り除く為、面会や病院関係者に入院中の様子をお聞きし、早期退院について相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来る範囲を家族に話し、ご本人、家族の意思を大切に医師との連携を図り、対応に当たっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講。自身でシュミレーションを行う。病院、家族、職員などの連絡先をわかりやすい場所に提示する対応マニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者を安全にどこへ避難させれば良いか場所や方法を確認している。また、動かない方向で消防と合意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁などは他ご利用者にわからないよう速やかに移動、対応をしている。声かけも他者が気が付かない様行っている。また、個別の部屋なのでプライバシーは守られている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事において「食べたい」物がある時は、職員に言える様な関係を築いており、行えている。入浴時にはご自身にて着替えを選ばれたり、10時15時のお茶は提示した物を選んで飲んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等、なるべく好きな時間に入れる様にしている。また、食事において朝食にパンがよい人はパン食を出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理容を行っており、パーマをかけられる人もいる。誕生日会などイベント時は女性の方は、職員対応にてお化粧をされたり、おしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理をし、好きな味付けをして頂いたり、またお盆出し、箸並べ、食器拭き、収納等をそれぞれ出来る事を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量は把握し、記録している。栄養士が作成した献立表にて、バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、介助の必要なご利用者は職員の介助にて施行。また毎晩の義歯消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行っている。日中はご利用者全員がトイレにて排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事の提供。排泄の把握、水分量のチェック。また運動、入浴時の腹部マッサージ、バナナや寒天などで工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者希望の入浴時間、好みの温度、その方に合った石鹸、シャンプーを使用し、温泉入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間記録にて睡眠状況を把握している。眠れない時などはお話を聴いたり、温かい飲み物でリラックスして頂いている。また、1日の生活リズムを作るよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用マニュアルにより誤薬防止・副作用の把握確認に努めている。服用前に他職員に確認してもらい、ダブルチェック体制で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸の好きな方にはお花の種まきや水やりをして頂いたり、歌の好きな方はお誕生日会などで唄って頂いたり、ドライブに行ったり、個々に合わせ機会を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方も居る。週に1度魚屋の特売が来た時にはご利用者自身で品物を選び購入されることもある。また、外にある自動販売機で飲み物を購入することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度手紙（そよ風だより、そよ風新聞）にて日常の様子を伝え、写真を添えて郵送している。電話も家族や知人等よりかかってきたり、かけたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月ご利用者に手伝って頂き、カレンダーや折り紙など飾っている。居室やリビングの空調等は配慮し、ご利用者に確認しながら職員が行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ピロティーにてご利用者同士で会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き、居場所の確保が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、居室の小物など大切にしている物を持って来て頂いている。仏壇を置かれている方もおり、できるだけ家庭にいた頃のような暮らしに近づける様努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理のお手伝いや食後のお膳を下げられる方には下げて頂いたり、洗濯物を干したり、たたんだり一人一人出来ることをして頂いている。また、一人で出来ない事も職員と共に行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 湯河原温泉ケアセンター
そよ風

作成日 平成 22年 8月 3 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所の周囲に定住者が少ない事情があるものの、災害時には近隣住民の協力を得られるよう、行政等を通じて近隣住民との一層の協力関係構築を期待したい。	災害時における近隣住民との協力関係の構築。	1) ご近所との交流のため施設前の道路の清掃を毎月スタッフと利用者で実施する。 2) 行事にご招待する 3) 防災の拠点としてそよ風を地域の方に提供する 4) 災害時におけるご協力をご依頼する 5) 認知症介護相談の実施のご案内	H.22.8月から実行→6ヶ月
2				6) 地域の防災訓練には必ず参加する	
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。